



# 柏崎陸上競技場

## 建設の精神

坂田四郎吉

月日の経つのは早いものだ。柏崎陸上競技場が出来て、夢かとばかり喜こんだのが、あの関東大震災のあとで、あれから指折り数えて見つけた大正十二年の九月。されば、今年でちょうど足かけ三十年となつてゐるではなかつた。然し早いと云えば早いが、三十年間の歴史はなかつて多彩であり、当時全国にも珍らしかつた此の事業が、この田舎町によくも成就したもの哉と、今は盡くる所を知らないのである。

殊に、建設の恩人西巻進四郎さん、二宮直二郎さん偕て戸口仁三郎さん等々他界されて茲に幾年。次第にその功績も、而してその立派な建設の精神も忘れ去られて行く事を思うとき、故私は限りない寂しさと、故人追慕の情、洵に切なるものがある。

茲に於て、よし私が如何に無學毫筆であろうとも、何とか柏崎競技場史を物にして行く事を思うとき、此の貴重な建設の精神とは、先覺者の功労に酬いる道であり、競技界へのよき贈り物でもあつて、それは「お前の使命であり責任であるぞ」と常に高い所から誰かに呼びかけられるようと思われる。従つて私は一日も早く、此の仕事に着手したものとの毎日願望して居るもの、経済的には無能なものである。大正十一年十月の事である。大運動場(當時は陸軍少将になつたが、非常狂乱のよくながが、山口誠太郎様への御願いの件で)で、敢えて茲に禿筆を原稿紙の上に執り上げた次第である。

月日の経つのは早いものだ。柏崎陸上競技場が出来て、夢かとばかり喜こんだのが、あの関東大震災のあとで、あれから指折り数えて見つけた大正十二年の九月。されば、今年でちょうど足かけ三十年となつてゐるではなかつた。然し早いと云えば早いが、三十年間の歴史はなかつて多彩であり、当時全国にも珍らしかつた此の事業が、この田舎町によくも成就したもの哉と、今は盡くる所を知らないのである。

殊に、建設の恩人西巻進四郎さん、二宮直二郎さん偕て戸口仁三郎さん等々他界されて茲に幾年。次第にその功績も、而してその立派な建設の精神も忘れ去られて行く事を思うとき、故私は限りない寂しさと、故人追慕の情、洵に切なるものがある。

茲に於て、よし私が如何に無學毫筆であろうとも、何とか柏崎競技場史を物にして行く事を思うとき、此の貴重な建設の精神とは、先覺者の功労に酬いる道であり、競技界へのよき贈り物でもあつて、それは「お前の使命であり責任であるぞ」と常に高い所から誰かに呼びかけられるようと思われる。従つて私は一日も早く、此の仕事に着手したものとの毎日願望して居るものである。大正十一年十月の事である。大運動場(當時は陸軍少将になつたが、非常狂乱のよくながが、山口誠太郎様への御願いの件で)で、敢えて茲に禿筆を原稿紙の上に執り上げた次第である。

月日の経つのは早いものだ。柏崎陸上競技場が出来て、夢かとばかり喜こんだのが、あの関東大震災のあとで、あれから指折り数えて見つけた大正十二年の九月。されば、今年でちょうど足かけ三十年となつてゐるではなかつた。然し早いと云えば早いが、三十年間の歴史はなかつて多彩であり、当時全国にも珍らしかつた此の事業が、この田舎町によくも成就したもの哉と、今は盡くる所を知らないのである。

殊に、建設の恩人西巻進四郎さん、二宮直二郎さん偕て戸口仁三郎さん等々他界されて茲に幾年。次第にその功績も、而してその立派な建設の精神も忘れ去られて行く事を思うとき、故私は限りない寂しさと、故人追慕の情、洵に切なるものがある。

茲に於て、よし私が如何に無學毫筆であろうとも、何とか柏崎競技場史を物にして行く事を思うとき、此の貴重な建設の精神とは、先覺者の功労に酬いる道であり、競技界へのよき贈り物でもあつて、それは「お前の使命であり責任であるぞ」と常に高い所から誰かに呼びかけられるようと思われる。従つて私は一日も早く、此の仕事に着手したものとの毎日願望して居るものである。大正十一年十月の事である。大運動場(當時は陸軍少将になつたが、非常狂乱のよくながが、山口誠太郎様への御願いの件で)で、敢えて茲に禿筆を原稿紙の上に執り上げた次第である。

月日の経つのは早いものだ。柏崎陸上競技場が出来て、夢かとばかり喜こんだのが、あの関東大震災のあとで、あれから指折り数えて見つけた大正十二年の九月。されば、今年でちょうど足かけ三十年となつてゐるではなかつた。然し早いと云えば早いが、三十年間の歴史はなかつて多彩であり、当時全国にも珍らしかつた此の事業が、この田舎町によくも成就したもの哉と、今は盡くる所を知らないのである。

殊に、建設の恩人西巻進四郎さん、二宮直二郎さん偕て戸口仁三郎さん等々他界されて茲に幾年。次第にその功績も、而してその立派な建設の精神も忘れ去られて行く事を思うとき、故私は限りない寂しさと、故人追慕の情、洵に切なるものがある。

茲に於て、よし私が如何に無學毫筆であろうとも、何とか柏崎競技場史を物にして行く事を思うとき、此の貴重な建設の精神とは、先覺者の功労に酬いる道であり、競技界へのよき贈り物でもあつて、それは「お前の使命であり責任であるぞ」と常に高い所から誰かに呼びかけられるようと思われる。従つて私は一日も早く、此の仕事に着手したものとの毎日願望して居るものである。大正十一年十月の事である。大運動場(當時は陸軍少将になつたが、非常狂乱のよくながが、山口誠太郎様への御願いの件で)で、敢えて茲に禿筆を原稿紙の上に執り上げた次第である。

## スポーツ物語

### 剣道始末記

一家で

### 妙光寺禿家

二十二段の

記

一

二

三

四

五

六

七

八

九

十

十一

十二

十三

十四

十五

十六

十七

十八

十九

二十

二十一

二十二

二十三

二十四

二十五

二十六

二十七

二十八

二十九

三十

三十一

三十二

三十三

三十四

三十五

三十六

三十七

三十八

三十九

四十

四十一

四十二

四十三

四十四

四十五

四十六

四十七

四十八

四十九

五十

五十一

五十二

五十三

五十四

五十五

五十六

五十七

五十八

五十九

六十

六十一

六十二

六十三

六十四

六十五

六十六

六十七

六十八

六十九

七十

七十一

七十二

七十三

七十四

七十五

七十六

七十七

七十八

七十九

八十

八十一

八十二

八十三

八十四

八十五

八十六

八十七

八十八

八十九

九十

九十一

九十二

九十三

九十四

九十五

九十六

九十七

九十八

九十九

一百

一百零一

一百零二

一百零三

一百零四

一百零五

一百零六

一百零七

一百零八

一百零九

一百零十

一百零一

一百零二

一百零三

一百零四

一百零五

一百零六

一百零七

一百零八

一百零九

一百零十

一百零一

一百零二

一百零三

一百零四

一百零五

一百零六

一百零七

一百零八

一百零九

一百零十

一百零一

一百零二

一百零三

一百零四

一百零五

一百零六

一百零七

一百零八

一百零九

一百零十

一百零一

一百零二

一百零三

一百零四

一百零五

一百零六

一百零七

一百零八

一百零九

一百零十

一百零一

一百零二

一百零三

一百零四

一百零五

一百零六

一百零七

一百零八

一百零九

一百零十

一百零一